

令和4年度 金谷中学校区地域包括支援センター事業実施評価票

資料2-5

	実施方針	目標	具体的な取り組み	実績	評価		課題・今後の方向性
					取組毎の評価	方針毎の評価	
必須項目	高齢者を地域で支える体制づくり	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように住民主体で高齢者を支えていく体制を整えていきます	地域の企業に地域課題を伝え課題を抱える高齢者の把握を行い見守り事業所を増やしていくとともに見守り事業所、民生委員等との連携を強化し見守り体制を構築する	①見守り事業所への包括広報誌の配布【毎月】 ②金谷地区見守りネットワーク事業所連絡会【年1回】 ③金谷地区民協と包括との情報交換会 ④新しい見守り事業所の立ち上げ	①毎月配布 ②1回(1月) ③1回(8・9・1月) ④未実施	△	年度途中で民生委員が半数以上交替したことから今後も新民生委員の理解を求め金谷地区見守り事業所と連携をとり見守り体制の構築を目指す新規見守り事業所立ち上げについては、引き続き声をかけていく
			市社協、金谷地区社協、金谷応援隊、CM等の関係機関と協働し高齢者支援について検討を行う。また、ほのほの会食会が休止する恐れがある。行き場を失くした独居高齢者の把握を行い関係者と支援していく体制をつくる	①生活支援をつなぐ会【年2回】 ②地区社協、金谷応援隊(外出支援、生活支援サービス)意見交換会 ③民生委員とCMとの情報交換会 ④ほのほの会食 参加高齢者への自宅訪問とアンケート実施	①2回(6月・8月) ②1回(2月) ③1回(2月) ④2回(5月8月)	○	S.C.、地区社協等の関係機関と連携をとりながら、男性高齢者の社会参加や、地域活動に新たな参加者を増やしていくため、リアル野球等を活用した新たな活動を広め、地域活動の活性化を図っていく
			個別ケース会議を積み重ね個別会議からみえてきた課題を抽出し課題解決に向けて会議を開催する。また、国保年金課等からの情報をもとに地区診断を行い地域課題を検討する。	①個別ケア会議【5回】 ②地域ケア会議【4回】 テーマ：高齢者見守り体制・CMからみえてくる地域課題・移動販売からみえてくる地域課題等	①3回 ②3回	△	個別ケースを積み重ね共通する課題をみつけて地域ケア会議が開催できるようにしていく
	地域住民が主体的に介護予防に取り組めるように支援していきます	いきいきクラブ、地域団体、居場所等で「高齢者あんしん講座」を実施し、介護予防の意識を高めるとともにコロナ禍でもできる介護予防の提案をしていく。また、終末期について自己決定できる機会を作る。	①高齢者あんしん講座【38回】 内容：フレイル予防・感染予防・心の健康・熱中症・栄養・健診結果分析から考えよう・リビングウィル等 ②ズームを活用したあんしん講座の開催	①51回 ②1回(2月)	◎	介護予防の意識を高めていくためにセンターから地域に積極的に出向いていく。また、出向いた時には、高齢者の困りごと、心配事を聞き、解決策を一緒に考えていく	
		金谷地区しまし、地域活動への継続支援や集まる場所がない地域への活動の立ち上げやコロナ禍で行き場をなくした高齢者の支援をしていく	①28ヶ所のしまし支援 ②しましや居場所の新規立ち上げ(下志戸呂・北五和) ③金谷地区しまし連絡会【年1回】	①支援実施 ②下志戸呂(12月開始)、北五和未実施 ③1回(12月)	△	参加者の減少、固定化、マンネリ化が課題。しましが継続できるように解決に向けて支援していく	
認知症施策の推進	認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせる地域づくりを目指していきます	様々な世代に認知症の基礎知識と理解を広げ地域で見守る応援者として活動する場を広げていく	①認知症サポーター養成講座【年5回】企業、金谷中学校、放課後児童クラブなど	①5回(西東石油・二軒家・五和小・金谷小放課後児童クラブ・金谷中学校)	○	毎年、小中高生に定期的に開催できるように福祉教育担当者と連携をとっていく	
		チームオレンジ茶っぴりの活動の場を広げ、認知症の方も参加できる場所を作っていく	①チーム茶っぴり連絡会【年2回】 ②チーム茶っぴりのPRチラシを作成する。 ③サロン&茶っぴりカフェの拡大	①3回 ②作成 ③上志戸呂に拡大	○	チーム茶っぴりの活動の場を広げていく	
選択項目	多職種、他機関とのネットワーク構築	多職種、他機関と連携をとりチームになって支援していきます	病院、薬剤師、看護師、理学療法士等の医療機関、介護支援専門員、栄養士、福祉課、障害相談機関、社会福祉協議会等と情報共有を行い連携を強化していくとともに事例を通して新たな連携の仕組みづくりについて意見交換を行う	①金谷ケアカフェ(リビングウィル・薬の知識・看取り・高齢者の栄養・事例検討等) ②ケアマネ連絡会	①4回 ②3回	○	今後も多職種と連携がとれるように定期的に開催していく。引き続き「医療職との連携も強化していく」
	センターの認知度を高めるための周知活動	市民にセマで身近な相談窓口になるように積極的に地域に出向き若い世代にも知ってもらえるように企業にも周知活動を行っていきます	商工会に出向き女性部の協力のもと新しい企業、商店にあんしんセンターのPR及び福祉教育の普及啓発を行う。また、移動販売に同行し山間部地域にもあんしんセンターのPRをしていくとともに気軽に相談できる関係を築く	①商工会(女性部)との情報交換会を開催 ②移動販売同行 ③公民館や商店・企業にあんしんセンターのポスターを掲示	①未実施 ②1月 ③掲示(5か所)	△	商工会には出向いたが情報交換はできていない。引き続きセンターのPRをしていくとともに商工会とも顔の見える関係づくりをしていく
	家族介護者の介護負担軽減等の支援と離職防止にむけた取り組み	介護知識を学ぶ機会を作り仕事を両立している介護者も介護離職することなく在宅介護が継続できるように支援していきます	これから介護していく若い世代に介護知識を学ぶ機会を作り高齢者の異常の早期発見、早期対応を目指していき要介護状態になることを防止していくとともに介護負担軽減と介護離職防止を図る	①はじめての介護講座【年1回】 ②介護についての勉強会【企業に向けて年1回】	①1回(2月) ②1回(2月)	○	若い世代にもあんしんセンターの周知してもらうために引き続き企業との連携方法について検討していき介護知識を学場を作っていく